令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　高見　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

(1)　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

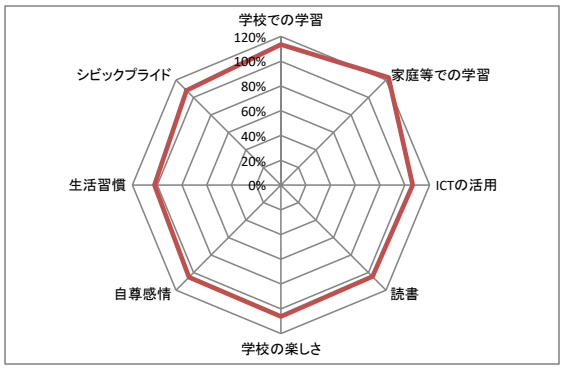
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2)　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	正答率は全国平均に対して「知識及び技能」「思考、判断力、表現力等」の内容が共に上回る。さらにそれぞれの具体的な内容に関しては、すべてで全国平均を上回るが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の正答率が特に高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかみる問題に課題がある。	

算数	全体的な傾向や特徴など	正答率は全国平均に対して、「知識及び技能」「思考、判断力、表現力等」の内容が共に上回る。さらにそれぞれの具体的な領域に関しては、「データの活用」「図形」の正答率が特に高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見い出した違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	正三角形の性質をもとに角の大きさを数値で回答したり、高さが等しい三角形の底辺と面積の関係を記述したりする問題の正答率は、全国平均は上回るが絶対値が低い。	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・質問紙全般の項目に対して、肯定的な回答が全国平均より高い。特に学習面については顕著である。 ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」との問いに対して90%以上の児童が肯定的に回答している。 ・授業や家庭でのPC・タブレットなどのＩＣＴ機器の使用が全国平均よりも10%以上高く、その結果ICT機器の有用性を実感していると思われる。 ・学校全体での授業改善により、主体的・対話的で深い学びの実現を目指したことで児童の自尊感情を高めていると思われる。今後も継続して取り組んでいくことが必要である。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○各担任が1時間の授業で、学習ノート（ワークシート）等に自分の考えを書かせる時間や話し合う活動の時間を確保するようにする。
○各担任が分かる授業づくり５つのポイントを常に意識し、子ども一人一人への教師の温かな関わりによる自律した学びの実現を図っていく。
○発問の工夫を行うことで、主体性向上、話合いの質向上、思考の広がりを目指す授業改善を図っていく。
○言語化（説明、表現）が苦手な児童への支援を行うとともに、引き続きＩＣＴ機器の活用を推進していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○生活科や総合的な学習の時間、学校行事等において、児童が活躍できる場面づくりを積極的に進めるとともに、がんばりカード等を活用し、子ども自身の高まりを視覚化を図っていく。
○学校・学年通信、ホームページ等での情報発信を積極的にし、家庭や地域の方々からの肯定的な評価へとつなでいく。
○「高見中学校区で目指す児童・生徒の１０のすがたと取組」に基づき、小中・家庭・地域で連携して、系統的な一貫した指導に当たることにより、学力向上や生活習慣の充実を図っていく。